



安全のために何ができるのか？

少しでもおかしいと思ったら立ち止まれる勇気を！



日航機墜落事故から40年

8月12日、航空機事故最悪と言われる日航機墜落事故から40年が経ちました。日本航空では事故を直接知る社員がわずか17名となり、記憶の継承が課題となっています。そのような中、当時の事故を知る社員が事故の教訓を伝え続け、「事故はさまざまな教訓を私たちに伝えてくれるもので、学び続けていく必要がある。安全のために自分に何ができるのか、皆さんが考えるきっかけにしてほしい」と呼びかけていました。また、遺族の美谷島邦子さんは、講演のなかで「安全のために少しでもおかしいと思ったら立ち止まれる、臆病者と言われる勇気を持ってほしい」と、訴えていました。

公共交通機関に従事する私たちは、お客さまの大切な命、人生そのものを預かる非常に重要な使命を果たさなければなりません。JR東日本グループは「JR東日本のさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」を提案し社員説明会を開催していますが、現場からの質問には明確な回答が出されず、混乱を招いているどころか、「JR東日本に見切りを付けて退職・転職」する若い社員が続出しており、優秀な人材が流出しています。その結果、事故・事象が多く発生しており、後を絶ちません。

今こそ、「安全」で「安心できる」輸送サービスを
提供できるよう、職場から声を出していこう！



社員が事故の教訓を伝え
続けているニュース



美谷島邦子さんの
講演ニュース